

コロナ禍の医療崩壊はなぜ起きたのか

―我が国の医療提供体制の構造問題に迫る―

学習院大学経済学部教授 鈴木 木 巨 すずき わたる

- *非常に悪かったコロナ対策の費用対効果
- *医療提供が拡大出来なかった理由
- *ベッド数世界一でも起こった医療崩壊
- *総動員体制が作れなかった真犯人は
- *そもそも病院間の連携・協力が不足
- *連携で重要な上りと下りの問題
- *問題は国と地方の権限・責任の不整合
- *リーダーの調整能力で打開した杉並、墨田
- *災害計画を具体的な行動に落とし込む
- *必要な日本医師会の改革



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は学習院大学の鈴木先生においていただきました。この何年間かわれわれ非常に気にしておりました、コロナ禍の問題そのものとはともかくとして、日本の医療体制というものがいかに欠陥があるかということ。それを話していただける方がなかなか少ないということで苦労してまいりましたが、今日はそのものずばりのお話をしたいだけだと思います。

鈴木先生は1970年のお生まれで、上智大学を卒業後、日本銀行、それから大阪大学大学院、日経センターを経て、現在学習院大学に奉職しておられます。日本には不合理なところがあちこちに残っております。これが結果として日本のいろいろな低迷をもたらしていると思

いますが、今日はその核心部分をぜひお話しただきたいと思えます。

それでは先生よろしくお願いいたします。（拍手）

非常に悪かったコロナ対策の費用対効果

鈴木 学習院大学の鈴木でございます。本日はお招きいただきまして本当にありがとうございます。

それでは「コロナ禍の医療崩壊はなぜ起きたのか？」というテーマで今日は講演をさせていただきます。2時10分ぐらいまで話していいと言われておりますので、70分ぐらいしゃべりまして、後はいろいろご質問をいただければと思